

神田外語とともに歩んできた人々の証言

第1回 佐野隆治会長①  
学院が誕生するまでの日々



昭和32（1957）年、東京・神田に「セントラル英会話学校」が設立されました。神田外語学院の前身となるこの語学学校を設立したのは、佐野公一・きく枝の夫妻でした。ふたりは終戦の時に、外国語を話せる若者を育て、外国と争いごとのない平和な社会を実現したいと誓い、それが語学学校建学のきっかけだったと伝えられています。では、開学までの間、どのような歩みがあったのでしょうか。ふたりの長男である佐野隆治会長が初めて語った学院が誕生するまでの日々の物語です。

親父（初代理事長・佐野公一氏）は明治38年（1905）の生まれで、静岡県の富士郡稲子村の出身です。（※1）稲子にはずいぶんと佐野という家があるんですよ。みんな屋号で呼び合っていたようですね。親父のところは「新家（にいや）」。おそらく本家じゃないんだろうね。富士川の支流が目の前を流れている。土地も急勾配になっていて、とても険しい場所です。親父は8人兄弟。家業は農家でした。

家を手伝った時期の後、親父は弁護士になりたくて、上京して中央大学の法学部に入った。苦学生だったようです。でも弁護士にはならなかった。詳しい話は聞いてないから分からないけれど、試験に落ちたのかな。卒業後は洋服の外交をしていたようですね。

僕は昭和9（1934）年の7月7日に生まれた。だけどこれは当てにならない。うちは姉が1月1日。僕が7月7日で、妹が2月2日。その下の妹が5月5日。だいたいその辺りで生まれているんだとは思うけど、当時は医者 の 証明書も必要なかったらうから。縁起をかついだのかもしれない。おふくろ（第2代理事長・佐野きく枝氏）に聞いたら、「そんなことない」と言ってたけど。





生まれたのは駿河台です。何歳までいたのかなあ。僕は記憶にないんだけど。4、5歳までかな。それから上野駅近くの上車坂に引っ越してきた。  
(※2) 小学校はすぐ近くの桜ヶ丘小学校。今の下谷小学校です。

当時は子どもがたくさんいた。台東区役所の回りに結構遊べる場所があるし、上野警察の前の道は人が通らないんですよ。ここで遊びまくった。小学校6年生を頭に、子どもたち十数人が遊び回っていましたよ。

(1/6)

1. 現在の富士宮市。下稲子や上稲子の地名が残り、JR身延線には「稲子」という駅がある。
2. 現在の上野7丁目。



第1回 佐野隆治会長①  
学院が誕生するまでの日々

「神田外語とともに歩んできた人々の証言」



**みんな栄養失調になって腹が出ていた。  
野山に行って、口に入るものは何でも食べた。**

小学校に入る頃、戦争が始まった。(※3) その頃、萱場(かやば)製作所という飛行機の機械装置などを作る会社がありました。(※4) いわゆる軍需工場です。親父は、そこの下請けで部品を作る仕事をしていました。自分で工場を立ち上げてね。足立区の西新井に工場がありました。

小学校4年になると集団疎開に行きました。福島県の会津高田という所です。4年の秋に行って、5年の夏に終戦を迎えて、その後の秋に帰ってきたからちょうど1年間ですよ。伊佐須神社という大きな神社があって、お参りする人たちのための旅館が何軒かあった。そこに分かれて泊まっていました。

旅館から地元の学校に通った。でも通ったのは着いてから1カ月くらいでした。先生が徴兵されてしまって。先生がいないからすることないんですよ。朝飯食べたらず遊んでいるほかない。

秋に行って、ちゃんとお飯が食べられたのは1カ月くらい。そのうちイモが出るようになって、それでも冬を越して4月、5月までは食べられたかな。その後は本当に食べるものがなくて、豆のカスを食べていました。軍が油を取るために大豆を潰して、そのカスを煮て食べていました。あれはひどかった。食べられるもんじゃない。みんな栄養失調になって腹が出ていた。





だから野山に行って、口に入るものは何でも食べた。覚えているのはお蚕さんの桑の実。それが結構甘くておいしくてね。ただ食べると口のまわりが紫色になるから、すぐにばれる。

小学校5年の8月に終戦を迎えて、東京に帰ったのは10月ぐらいだったかな。翌年の4月ぐらいまで学校が始まらなかったような気がします。戦後すぐだから、先生だってすぐには軍隊から帰って来られなかったのでしょう。(2/6)

3. 昭和16（1945）年12月8日真珠湾攻撃が行われ太平洋戦争が勃発。
4. 現在の株式会社カヤバ工業（通称KYB）。戦中はオートジャイロなどを設計・製造していた。



第1回 佐野隆治会長①  
学院が誕生するまでの日々

「神田外語とともに歩んできた人々の証言」



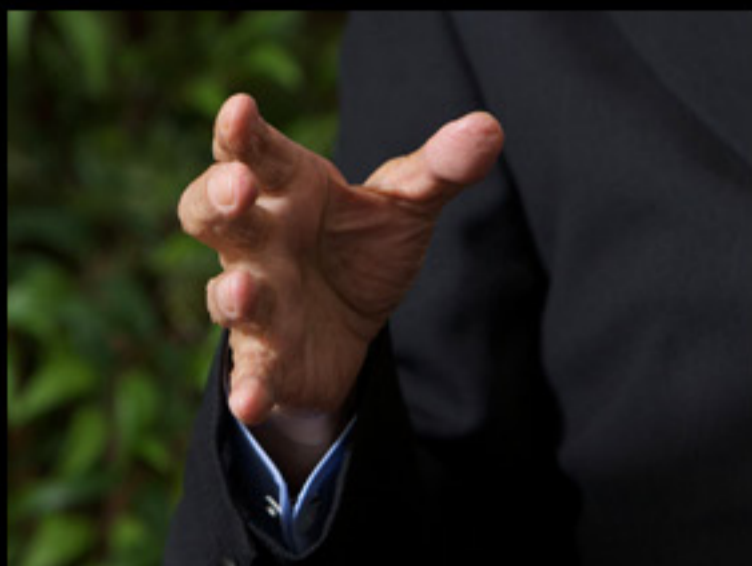
そして敗戦になった。そのときに感じたのでしょうね、武力ではどうにもならないと。

戦時中、親父やおふくろは上野にいました。その時、米軍が上陸するって話があった。親父は日本刀、おふくろは短刀を持って、攻めて来たら戦って死のうと腹を決めていた。ある時期まで刀は残っていましたよ。親父は軍需産業に携わるくらいだから、日本という国家を大切に想っていたはずです。

そして敗戦になった。そのときに感じたのでしょうね、武力ではどうにもならないと。そこで感じたことが、『言葉は世界をつなぐ平和の礎』という考えの原型になっていったようです。外国人と話し合いができないようであれば、平和なんてないと。親父にとって敗戦は大きな出来事だったと思いますよ。

話は前後しますが、親父は終戦後すぐの選挙に出馬したと聞いています。大野伴睦（おおのばんぼく）という代議士に誘われて2度ほど出たけれど、どちらも落選だったようです。（※5）小学校5、6年生の子ども相手に詳しい事情を話す親もいませんから、本当のところは分かりませんが、日本という国に対して、何かしなければならぬという強い気持ちがあったことは確かでしょうね。

戦争が終わると飛行機の部品を作るわけにはいかない。ただ、工場に鉄の材料が色々残っているわけじゃないですか。焼け跡を片付けて、土をならすには何が必要か。親父はショベルやスコップ、クワやスキを作って売り出したんですよ。







上野の上車坂には「佐野商店」という店も構えていた。上野の駅舎を出て、浅草へと向かうまっすぐな道がある。それをちょっと曲がったところ。東京大空襲で浅草のあたりは全滅だったけど、上野駅の回り、ほんの一部が焼けなかったんですよ。上車坂、下車坂、そして車坂の一部。上野の山に高射砲の陣地がありましてね。ドンドン撃つんで、米軍機も危ないから避けたんでしょう。うちも焼け残ったからすぐに店を始められた。

クワヤスキはよく売れた。だって必要なんだから。でも、長いことはやっていない。次は、鍋や釜です。焼け跡を片付けて、少し落ち着く。すると今度は鍋や釜が必要になる。これもよく売れた。店員も十数人に増えました。みんな若い人は住み込みで、うちの2階に住んでいた。都内の人でも家を焼かれていたからね。みんな鍋釜を背負って売りに行っていました。その次はライターです。国産のライターを作っていました。

(3/6)

5. 大野伴睦（1890年～1964年）自由民主党の初代副総裁。



第1回 佐野隆治会長①  
学院が誕生するまでの日々

「神田外語とともに歩んできた人々の証言」



**親父がコーヒーを飲む姿なんて見たこともなかった。段取りを組んだのは僕だった。**

中学校は通りを挟んだ車坂にある西町中学校に行くことになっていたけど、上車坂と西町は仲がよくないから、そんなところ行けるかいと。クラスの先生も開成中学へ行くよう言っていたから受けたんですけど、口頭試験だけなのに落っこちた。それで、日大三中（日本大学第三中学校）へ行きました。当時は赤坂にありました。おふくろが教員だったから学校には詳しくった。

おふくろは明治39年生まれで、親父の一つ年下でした。福井で教員やっていて、それから東京に出て親父と出会った。東京でも小学校の教員免許を取って、上野から亀有の小学校へ通って、教えていました。

姉、僕、妹たちはみな、中学から私立学校へ行きましたね。姉は音楽が好きで上野女学校へ行き、その後は学習院の高等科に入った。すぐ下の妹も学習院へ行って、一番下の妹は和洋女学院へ行きました。子どもたちをみな私立に行かせられたのは、おふくろが教育に熱心だったのと、親父の商売がそれなりにうまくいっていたからでしょうね。

僕は日吉の慶應高校へ行きました。日大三中の仲間で7、8人ずつ分かれて早稲田と慶應へ飛び出しちゃった。高校時代は楽しかった。附属だから受験勉強もないし。のんびりとした時代だった。東大などの国立大学へ行くのであれば勉強をしなくちゃならなかったのかもしれないけれど、私学なんて行くのは割と楽な時代だったと思いますよ。





昭和25（1950）年、僕が高校生になると親父は佐野商店を喫茶店にすると言い出した。なんでそんなこと言い出したかも分からなかったし、なにしろ、親父がコーヒーを飲む姿なんて見たこともなかった。おまけに親父は何もやらない。段取りを組んだのは僕だった。

夏休みになると浅草の喫茶店で働いていた先輩のところに手伝いに行っ  
て、色々覚えた。パーテンを雇って、段取りをつけて、おふくろも教  
員を辞めて家に入り、店を切り盛りした。親父は何をやっていたんだろ  
う。昼から出かけて、夜になると家にいる。確かに、喫茶店の主人なん  
て何もすることはないから。喫茶店の名前は「千代田苑」でした。

（4/6）



第1回 佐野隆治会長①  
学院が誕生するまでの日々

「神田外語とともに歩んできた人々の証言」



**朝飯食べなきゃ腹減るでしょ。  
モーニングサービスという言葉も僕が考えた。**

高校2年生の夏、僕は肋膜炎と診断されました。それで高校を休んでいたんだけど、世田谷の奥沢に下宿するようになったんです。商売をしていたので、いい若い者が家にいたらみっともないってと言うんで。結局体は大丈夫だったんだけど、親元を離れたから友達や先輩と遊ぶようになって、勉強はしなくなっちゃいましたね（笑）。結局、慶應大学の法学部へ進学しました。経済学部へ行きかけたけど成績が悪くて法学部になりました。

大学時代もしっかり遊びましたよ。ただ、さすがに軍資金も稼がなくちゃいけない。友達の親父さんが外車の販売をしていたから、その友達と一緒に学校の友人たちに声をかけて車を売った。当時、フォードが120万円くらいだったけど、買う人はいくらでもいた。1台売れると5万円くらいもらって、友達と分けましたね。それと、ダンスパーティが流行っていたから主催してねえ。5、6回は開いたかなあ。目黒の雅叙園や丸の内永楽ビルの地下ホールで開いた。ずいぶんと稼ぎましたね。他の大学の連中とのネットワークもできた。

親父の喫茶店もうまくいっていた。入谷に2号店を出して、神田に3号店を出した。僕も大学生だったから、神田店に住み込みながら、店の段取りをしていた。店は神田多町でした。駅のすぐそばです。





あの頃、学校行ってたから朝飯食べなきゃ腹減るでしょ。朝8時に店を開いて、コーヒーにトースト、タマゴを出すようにしたんですよ。いわゆるモーニングサービス。出勤前のサラリーマンがよく来てねえ。今はどこでも出しているんだけど、あれは僕が考えた。その頃は今のよう朝早くからうどん屋やラーメン屋がやっているわけじゃないし、みんなうちの店で朝飯を食べて会社に行く。ヒットしましたよ。モーニングサービスという言葉も僕が考えた。

大学には4年間籍があったけど、結局卒業はしませんでしたね。親父と喧嘩して神田の喫茶店からも飛び出して、中野あたりに住んでいた。お金がないから仕事をしなくちゃならない。(5/6)



第1回 佐野隆治会長①  
学院が誕生するまでの日々

「神田外語とともに歩んできた人々の証言」



**おふくろから連絡があった。  
「もう一度戻ってきなさい。学校を手伝ってほしい」  
と。**

税金対策の方法を紹介する新聞があって、その営業をしたこともある。商店を1軒1軒回り、経理の方に新聞を購読しませんかとお願ひする。ちょうど入梅時期で季節も悪かった。毎日雨が降っていた。ずぶ濡れになりながら、1カ月半か2カ月やったかな。厳しかったねえ。

次は住宅地のセールス。茨城県の守谷に土地を持っている会社があって、それを分譲販売していた。社長の息子が担当で、あまり年齢も変わらなかった。小生意気な奴で、「お前らにはこの土地は一生買えるかどうか分からないものだ」と言われたのを覚えてますね。経理新聞と住宅地のセールス。この2つがまったく儲らなかった。ただ、苦勞したけど、若かったから大して辛くはなかった。

次は建築資材を売る会社に入りました。スクーターで建設現場に行つて、注文を取ってくる。ご用聞きです。初めて会社組織に属した。会社というものがどうやって動いているか、色々なことを学びました。同時に、会社員ってものは、いくらがんばっても給料が決まっていることも。

その後、会社の先輩と独立して会社を作った。やはり建設現場にモノを売る仕事。でも、実際に自分たちだけでやってみると簡単じゃない。儲らない。1年ぐらいで会社はつぶれました。





それで次は先物取引をやった。自分で保証金や支度金を用意した。親父やおふくろには頼めないからね。儲りましたよ。26歳から3年間やって2000万ぐらいは残したのかな。でも、取引で経営が傾いてしまったお客さんがいた。リスクを承知でやっているから誰も悪くはないんだけど、この仕事に嫌気がさした。恥のような感覚が生まれた。

ちょうどその頃ですよ。おふくろから連絡があった。「もう一度戻ってきなさい。学校を手伝ってほしい」と。親父が神田で始めていた英会話学校をもっと大きくするって言い出している、って言うんです。先物取引にも嫌気がさしていたから、じゃあ戻るかと。そこからですよ、僕が神田外語に関わり始めたのは。(6/6)

**(次号に続く)**

**佐野隆治 (さのりゅうじ)**

昭和9 (1934) 年東京生まれ。慶應義塾大学法学部中退。昭和38 (1963) 年、神田外語学院の前身であるセントラル米英語学院の経営に参画、以来、神田外語グループの発展において中心的な役割を果たす。昭和63 (1988) 年に学校法人佐野学園の第3代理事長に就任。平成22 (2010) 年、理事長を退き、会長に就任する。平成29 (2017) 年3月永眠。享年82歳。